

今回は、図書担当である園美先生がメンターになり、読書指導・図書館活用についてのお話をさせていただきました。

なぜ、本を読むといいの？

脳科学者である茂木健一郎さんは、「本は脳の栄養素！読書が子どもの心を豊かにする」とおっしゃっています。本を読むほどに、いろいろな考え方や生き方を学び、人の気持ちが分かるようになったり、苦しみを乗り越えるヒントを与えてくれるのだそうです。

子どもを本好きにするには？

市教研サークルⅡ（読書・図書館教育研究会）の講師として来ていただいた高知子ども図書館副館長である安藤厚子さんの講話から学んだことをもとに『子どもと本をどう結び付けるのか』という点においてお話をしてくれました。

***本を読む時間を確保しよう！**
朝読書や学習の隙間時間に

***読む本が身近にあること！**
・図書館、学級文庫、必読図書

子どもを本好きにするには、本に触れる機会がたくさんあること、環境が大切です。図書館の環境整備はもちろん、教室の環境も整えていきたいですね。もう一度、教室環境を見直してみましょう！

***子どもと本を結びつける人がいること！**
教師、親、図書館員など

***読書習慣を築く！**
読み聞かせ
低学年から毎日図書館へ

読書量には、個人差が見られます。その原因は様々だと思いますが、教師が『一人一人の子どもに寄り添うこと』が大事であると安藤さんはおっしゃっていました。「この子には、こんな本がいいのではないかな？」「あの子には、この本かな？」など一人一人の子どもをイメージしながら教師から本を進めてみることも大切だそうです。少しでも本好きな子どもに、自ら進んで本を手取る子どもに育てていきたいですね。

そして、子どもを本好きにするには、**まず先生が本を読みましょう！**
本物に出会うこと（宮沢賢治、太宰治など作者のゆかりの地を訪ねる）ことも大切だそうです。

本（読書）を通して、感性豊かで自立した子どもに

* 1人で行動できる自立した人間に
* 身の回りのことが自分でできる
* 学ぶことを大切に
* 人の生き方に学ぶ

<メンターの振り返り>

・本を好きにさせるためには、時に教師が読み聞かせをしてあげること一つ有効な手段だと感じた。
・低学年から、本を借りに行く習慣をつけさせたい。個人差もあるので、時には全員（教師も一緒に）で図書館へ行くという手立ても大切だと分かった。



先生方の心に残る1冊はどのような本ですか？ぜひ、子ども達に紹介してあげてください。
園美先生、ありがとうございました。